

小学校社会科における「学習指導案」作成の基礎

1. 学習指導案は、授業の「設計図」

子どもたちが単元の学習目標を実現できるように、教師がどのように授業を進めていくのかを明らかにした「設計図」が学習指導案です。社会科の授業は、基本的には「問題解決的な学習」を指導原理としているため、単元の指導計画は、「つかむ⇒調べる⇒まとめる」という展開で書いていくのが一般的です。以下、実際の学習指導案の例を見ながら、作成のポイントを確認していきましょう。

2. 学習指導案作成のポイント

第5学年学習指導案

学習指導案は、一般的には「～である」「～する」といった常体で書きます。

日 時 令和○年○月○日(水)
対 象 第5学年1組
指導者 ○○ ○○

1 小単元名 「寒い土地のくらしー新潟県十日町市ー」(全6時間扱い)

小単元の目標は、学習指導要領の目標及び内容を踏まえて設定します。ここでは「資質・能力」ごとに書いていますが、一文で表す書き方もあります。

2 小単元の目標

我が国の国土の様子と国民生活について、学習問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

- (1) 寒冷多雪の地域の人々は自然環境に適応して生活していることを理解するとともに、地図帳やグラフ、文章、映像などの資料で調べたりして、ワークシートやリーフレットにまとめることができる。
- (2) 気候に着目して、自然条件から見て特色ある寒冷多雪の地域の人々の生活を捉え、自然環境の特色と国民生活との関連を考え、表現することができる。
- (3) 自然条件から見て特色ある寒冷多雪の地域の人々の生活について、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。また、思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情を養う。

観点別評価規準は児童の学習状況を把握するため、文末は「～している。」というように、児童の立場で書きます。

3 小単元の観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 寒冷多雪の気候や人々の生活について地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を理解している。	① 寒冷多雪の自然条件に着目して、問いを見出し、特色ある地域の人々の生活について考え、表現している。	① 寒冷多雪の自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりしながら主体的に問題を追究・解決しようとしている。
② ワークシートやリーフレットにまとめ、寒冷多雪の地域の人々は、自然環境に適応して生活していることを理解している。	② 寒冷多雪の自然条件と人々の生活との関連を考え、適切に表現している。	

4 小単元の指導の考え方

本小単元の学習が、学習指導要領のどの内容に関連して計画されているのかを明らかにします。

(1) 学習指導要領との関連

本小単元は、次の学習指導要領の内容を踏まえて構成した。

内容(1)

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること。

(ウ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること。

前後の小単元の学習との関連や、教材の扱い方を工夫した点などについて書きます。

(2) 教材について

前小単元の「日本の国土の地形と気候」の学習では、日本の国土の地形と気候の特色や概要について捉えた。そのことを踏まえて、本小単元では気候条件に着目して、「日本の国土において、地域によって人々の生活に違いがあること」「その地域に住む人々は、自然環境に適応しながら生活していること」「自分の住む地域に愛着をもって生活していること」などを捉えさせたい。

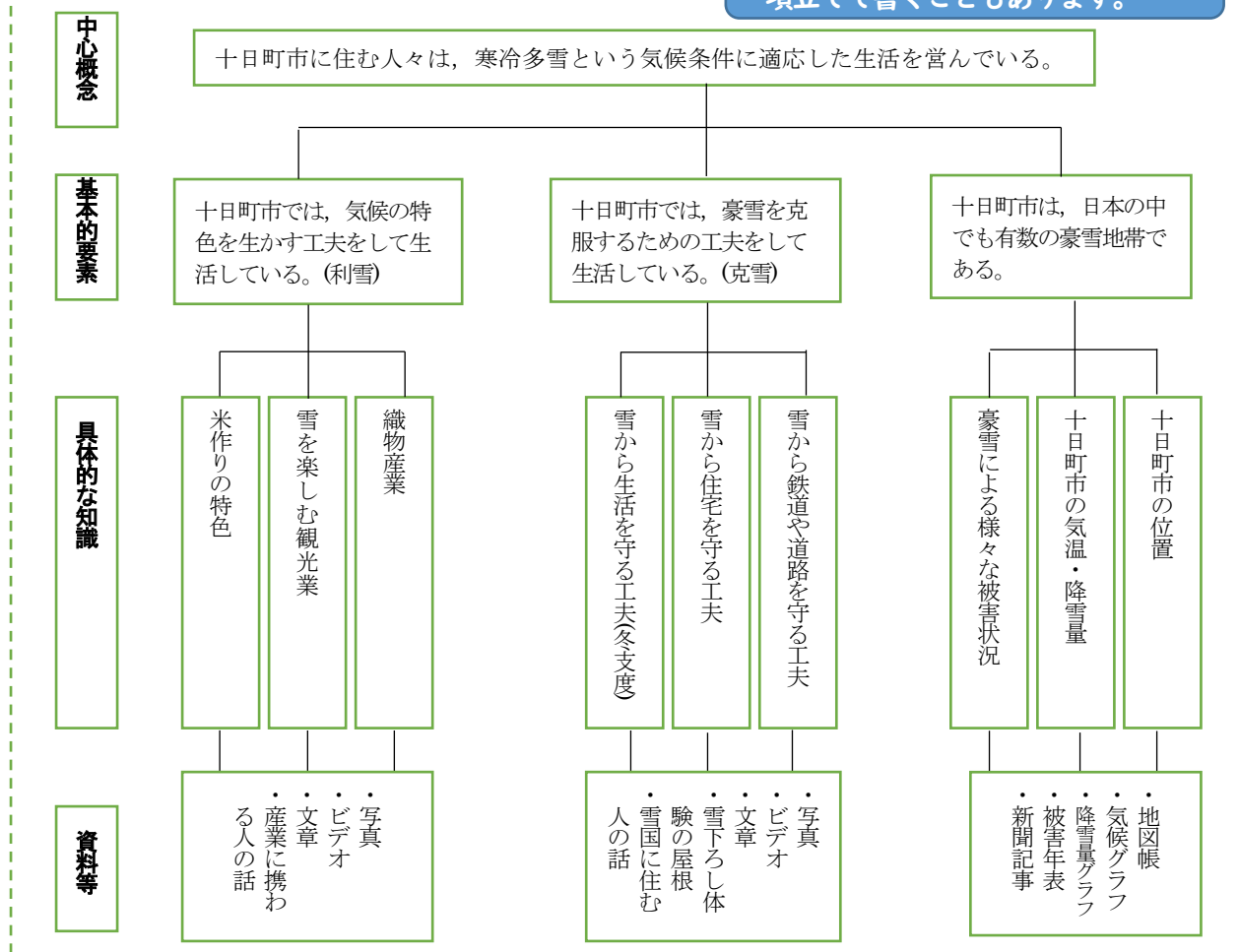
そこで、本小単元では、「寒冷多雪の地域の人々は、気候条件に適応した生活を営んでいる」ということを中心概念とし、それを具体的に捉えさせるために、寒冷多雪の地域である「新潟県十日町市の生活」を事例として扱うことにした。新潟県十日町市では、多い年で2m～3mの積雪があり、人々は「克雪」と「利雪」の視点から、工夫しながら生活を営んでいることを捉えられるように指導する。そのため、小単元の展開において、人々の生活の工夫についてビデオや写真などの資料を活用して追究・解決できるようにするとともに、その地域に住む人々の思いや願いを聞く活動も取り入れるようにすることで、地域に対して愛着をもちながら生活していることにも気付けるようにする。

本小単元の「教材構造図」を次のように捉え、指導と評価の計画を立案した。

「教材構造図」とは、指導者である教師が、小単元の教材をどのような構成で捉えたのかという全体の構造を表したものです。最上段に「中心概念」を置き、「基本的要素」「具体的な知識」「資料等」の順で構造的に示します。「中心概念」は、本小単元の終末で、調べて習得した具体的な知識を総括して子どもに獲得させる概念的な知識のことです。「基本的要素」は、「中心概念」を構成する要素で、内容のまとまりごとに捉えさせたい事項で、「中心概念」を支える要素のことをいいます。

【教材構造図】

「教材構造図について」として、改めて
項立てて書くこともあります。



社会科に関する一般的な実態ではなく、本小単元に関わる児童の実態(既
有の知識や生活経験など)を書きます。

(3) 児童の実態について

「日本の各地の暮らし」に関する意識調査から、寒冷多雪の地域の生活については、「衣食住」について「寒さ」に適応した生活についてのイメージはあるが、「積雪」の中でどのような生活をしているかについてのイメージは弱い。そのため、十日町市が豪雪地帯であることを具体的に捉えさせ、そのような自然環境の中でどのような生活をしているのかという問題意識を喚起させ、興味・関心をもたせたい。

校内研究や研究団体の研究テーマに即して、どのような指導の
工夫をすることで関連をもたせているのかを書きます。

5 研究テーマとの関連

区内の小学校研究会の研究テーマは、「児童が主体的に追究する社会科学習」である。そのため、児童に「問い」をもたせる指導を工夫することで、社会的事象の見方・考え方を働かせて主体的に追究させるようにする。また、児童の考えを深めるために、対話的な学びの場を意図的に設定して、社会的事象の意味を捉えられるようにする。

6 小単元の指導と評価の計画（全8時間扱い）

「教師の指導・支援」の「留意点」は、「児童の学習活動」において、子どもを期待する学びに導くために、教師がどのような手だてを講じるかという視点で書きます。

過程	ねらい (数字は時数)	児童の学習活動 (○主な学習活動 ・児童の反応や内容)	教師の指導・支援 (◎留意点 □資料 ◇評価)
つかむ	①②雪国・十日町市 の様子から、雪国 の生活に関心をも つ。	○雪国・十日町市の位置や気候の特色を調べる。 ・日本海側にある新潟県の中央部にある。 ・周囲を山で囲まれている。 ・積雪量が多い豪雪地帯である。 ○雪国の生活で困ることについて、積雪量を示 す2mの棒をもって学区域を歩いて調べる。 ・道路が埋まって車が通れない。 ・ごみの収集所が埋まってしまう。 ・店が雪で埋もれて、買い物ができない。	□地図帳 □積雪の写真 □積雪量のグラフ □新聞記事 ◇十日町市の位置や積雪量を読み 取っている。【知・技】 ◎積雪によって、どのようなこ とが困るのか、その理由も考 えさせる。 ◇雪国の生活を積雪量との関連 で考えている。【知・技】
「児童の学習活動」は、「～する」というように、児童の立場で書きます。			
	③雪国の人々の生活 についての学習問 題をつかむ。 (本時)	○十日町の市街地の写真を見て、雪国の生活の 様子について話し合う。 ・まちの人たちみんなで雪かきをしている。 ・道路の雪が取り除かれているのは、どうして なのか。 ・店の前には屋根があって、店の中に入れる。 ○十日町市の生活について、Aさんの話を聞き、 自分が調べたい「問い」を書く。 ・除雪作業 ・交通 ・買い物 ・住宅のづくり ・学校生活 ・産業	□前時の調査活動の写真 □十日町市の市街地の写真 ◎「除雪」に焦点を当てて、どの ような生活をしているのか考 えさせる。 □雪国の生活に関するAさんの話 ◇積雪量が多いなかでの人々の 生活について、自分の「問い」 を見出している。【思・判・表】
	【学習問題】 積雪量が2m以上にもなる十日町市では、どのような生活をしているのだろうか。		
調べる	④⑤雪から生活を守 ったり、雪を生か したりする人々の 工夫や努力の営み を調べ、まとめる。	○自分の「問い」について資料を使って調べる。 ・交通を確保するための人々の組織的な取組 ⇒道路（流雪溝、消雪パイプ、除雪車、スノーボール） ⇒歩道（がんど、アーケード） ⇒鉄道（ラッセル車、スプリングラー） ・雪から家を守るための人々の工夫や努力 ⇒雪下ろし、克雪型住宅 ・冬のくらしの様子や工夫 ⇒冬支度（雪囲い、暖房、漬物） ・雪国の気候を生かした仕事の工夫 ⇒雪祭り、織物業、米作りの特色	□文章資料「雪国のくらし」「雪 の町からこんにちは」 □映像資料「十日町のくらしと 自然」 ◎雪国の生活の工夫を「克雪」 と「利雪」の視点から考えさせ る。 ◇雪国の生活の工夫について必 要な情報を集め、読み取って いる。【知・技】 ◇自分の「問い」について粘り強 く調べている。【主体】
	⑥雪から家を守る 人々の苦労を考え る。	○実際に模型の屋根の上で、雪下ろしをする模 擬体験をして感想を話し合う。 ・雪は思っていたより重く、何時間もやったら 疲れると思う。 ・バランスを崩して屋根から落ちる人もいると思う。 ○十日町市に住むBさんの話を聞いて、雪下ろ しについての思いを調べる。 ・近所の人たちと協力してやっている。 ・一冬に何回か行う必要がある。 ○雪下ろしをするBさんの気持ちを考える。 ・高齢になっても家を守るためには必要だ。 ・毎年のことなので大変だ。 ・移住を考えないといけない。	□屋根の模型と雪に見立てた砂袋 □文章資料「雪の重さ」 □新聞記事「雪下ろしによる事 故」 ◎雪下ろしの模擬体験をするこ とで、どのようなことが大変 なのか考えさせる。 □Bさんのインタビュービデオ ◇雪から家を守るための生活に ついて、Bさんの思いをもと に考えている。【思・判・表】
	(⑦ 省略)		「教師の指導・支援」の「評 価」は、三つの観点のうち のどれに当たるか【 】で 記入します。
まとめる	⑧雪国のくらしにつ いて、調べて分か ったことや自分の 考えをパンフレッ トにまとめる。	○学習問題についての考えを話し合う。 ・克雪や利雪の視点からの生活の工夫 ・十日町市に住む人々の土地への愛着 ○「ズームイン・レポート 雪国・十日町市」 と題して、調べてわかったことや考えたこと を図や文でまとめる。	□自分が調べたワークシート ◎雪国で生活する人々に対する 自分の思いを考えさせる。 □分かったことや考えたことを まとめることで、自然環境に 適応した生活について理解し ている。【知・技】

7 本時の指導(3/8)

(1)ねらい

雪国・十日町市の市街地の様子を写真資料で調べ、雪国の生活について追究する学習問題をつかむ。

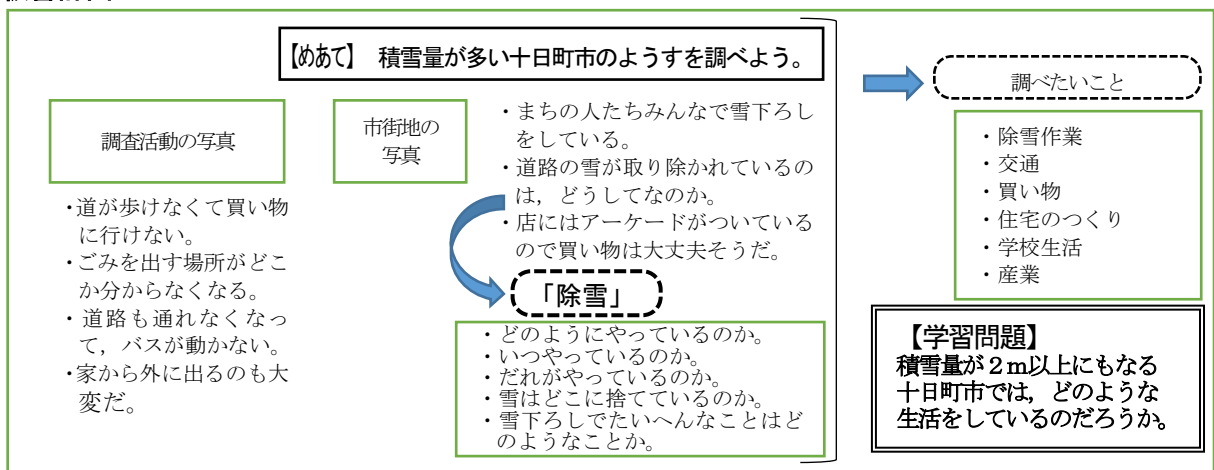
(2)本時の展開

「児童の学習活動」のまとまりごとの意図を明確にするために、「分節ごとのねらい」を入れる書き方もあります。

分節ごとのねらい(分)	児童の学習活動 (1～4 主な学習活動・児童の反応や内容)	教師の指導・支援 (◎留意点 □資料 ◇評価)
※積雪が2m以上になると市民の生活で困ることを考える。 (10)	1 前時に行った、積雪量を示す2mの棒をもって調べた活動をもとに、大雪が降って雪が積もると生活で困ることを発表する。 ・道が歩けなくて買い物に行けない。 ・ごみを出す場所がどこか分からなくなる。 ・道路も通れなくなって、バスが動かない。 ・家から外に出るのも大変だ。	□前時の調査活動の写真 ◎自分たちの生活との関わりで、困ることを発表させる。
()内の数字は「分」を示す。	【本時のめあて】 積雪量が多い十日町市のように調べよう。	「児童の学習活動」は、「～する」というように、児童の立場で書きます。
※十日町市の市街地の様子から、大雪から生活を守る取組について考える。 (20)	2 十日町市の市街地の写真を見て、雪国の生活の様子について話し合う。 ・まちの人たちみんなで雪下ろしをしている。 ・道路の雪が取り除かれているのは、どうしてなのか。 ・店にはアーケードがついているので買い物は大丈夫そうだ。 3 生活の様子の中から「除雪」に絞って話し合う。 ・道路に雪がないのは、除雪車がやったと思う。 ・いつやっているのだろう。 ・だれがやっているのだろう。 ・雪はどこに捨てているのだろう。 ・雪下ろしで、どんなことが大変なのだろうか。	「本時のめあて」は、児童がどのような学習をするかを書きます。 □十日町市の市街地の写真 ◎「除雪」の取組について「たぶん～しているのではないか」というような問題意識を喚起させる。
※十日町市の生活について疑問に思ったことをもとに学習問題をつかむ。 (15)	4 雪国の暮らしについて、十日町市出身のAさんに質問することで、さらに自分が調べたい「問い」を発表する。 ・除雪作業 ・交通 ・買い物 ・住宅のづくり ・学校生活 ・産業	□十日町市出身のAさんの話 ◇積雪量が多いなかでの人々の生活について、自分の「問い」を見出している。 【思・判・表】(ノート・発言)
	【学習問題】 積雪量が2m以上にもなる十日町市では、どのような生活をしているのだろうか。	

(3)板書計画

評価の観点と評価方法を書きます。



3. 学習指導案の活用の留意点

学習指導案は「授業の設計図」であり、どのように授業を展開していくのかを示したものです。あくまで、指導するときの「案」なので、実際の児童の興味・関心、問題意識の方向性などを見定めながら、弾力的に扱うことが大切です。また、授業後には、子どもたちの実際の反応と指導を振り返り、修正案を作成することが望ましいです。